

平成25年度自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 共通教科と専門教科の指導連携により、活力ある授業を目指し、学力の向上に努める。	① 主体的に学習に取り組めるよう、授業における言語活動の充実を図る。	教務課	学習態度は概ね良好であるが、自ら思考し、表現することを苦手としている生徒が見られる。	【満足度評価】 生徒自身の思考・表現の時間が授業中に適切に設けられている。	「考えたり、発言する機会が授業中に設けられている」と評価した割合が、 A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である	CまたはDの場合は、指導方法、研修内容を再検討する。	生徒による授業評価を前後期1回ずつ実施する。
	② 共通教科と専門教科の指導連携を図ることで、学習内容の定着につなげる。	共通教科 専門教科	教科間での情報交換による学習の相乗効果が求められている。	【努力指標】 指導連携により学習効果を高める。	教師間での情報連携が A 十分できた B 概ねできた。 C 少しできた。 D 十分にできなかった。	Dの割合が40%以上の場合は検討する。	7月・12月に職員アンケートを実施する。
	③ 専門教科指導の土台となる、共通教科の学力向上を図るため、活力ある授業の実施に努める。	共通教科 (国英数理社)	専門教科と比べて、「興味・意欲」の授業評価項目が低い。	【満足度評価】 興味深く学習意欲が湧く授業である。	国英数理社の共通教科の授業評価で、「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である	CまたはDの場合は、指導方法、研修内容を再検討する。	生徒による授業評価を前後期1回ずつ実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 専門教科指導の充実と質を高める工夫に努め、看護師・介護福祉士国家試験合格率100%を目指す。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生 看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習で偏差値40未満の生徒が0人である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	B以下の場合は、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習で合格の目安となる偏差値38未満の生徒が0人である。	偏差値38未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	B以下の場合は、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	③ 専門教科の知識の確実な定着を図るために小テストや学習方法の個別指導を実施する。 学習形態(グループワーク・習熟度等)や学習方法(ICTの活用等)を工夫する。	健康 福祉科	定期考査及び国家試験演習で、一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 (1、2年生) 定期考査の得点で専門教科が60点以上の生徒がクラスの70%以上である。 (3年生) 国家試験演習のクラス平均得点率が70%以上である。	(1、2年生) 60点以上の生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 (3年生) クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	(1、2年生) CまたはDの場合は、指導体制や内容の検討を行う。 (3年生) CまたはDの場合は、個々に対して学習方法の見直しを実施する。	全生徒が一定レベルに達するまで指導を継続する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3:地域の医療・福祉を支える人材について、本校の果たす役割の啓発に努め、志願者の増加に取り組む。	①:地区説明会、個別説明会等を開催し、看護師・介護福祉士の役割を啓発する。	総務課 教務課 健康福祉科 衛生看護科	看護師・介護福祉士の役割に対する理解を促し、本校への志願に繋げる必要がある。	【成果指標】 地区説明会、個別説明会等の参加人数が増加する。	説明会等への参加人数が、昨年度よりも A 10人以上増加した。 B 5人以上増加した。 C 5人未満増加した。 D 減少した。	Dの場合は、啓発活動の内容、方法等を再検討する。	説明会ごとに集計する。
	②:中学校や地域の方々に本校への理解を深めてもらうために、行事参加機会と情報提供に努める。	総務課	学校公開行事において、中学生や地域の方々の来校数が少ない。	【成果指標】 学校祭、教育ウィーク、学校公開等の参加人数が増加する。	学校公開行事への参加人数が、昨年度よりも A 20人以上増加した。 B 15人以上増加した。 C 10人以上増加した。 D 10人未満 である。	Dの場合は、学校公開行事の内容、方法等を再検討する。	学校公開行事ごとに集計する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4:部活動や生徒会活動等の活性化を図り、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい体力とコミュニケーション力を育成する。	①:生徒会活動や部活動を推奨する。	生徒会	生徒会活動や部活動において消極的な生徒が多い。	【満足度指標】 生徒会活動や部活動に積極的に参加し、達成感を得る。	個々の活動における達成感を感じる生徒が A 80%以上 B 65～80% C 50～65% D 50%未満 である。 ※3年生は前期まで	Dの場合は、指導内容や活動内容を検討する。	7月・12月にアンケートを実施する。
	②:壁倒立の実施により、達成感や体力の向上を図る。	体育科	「自分は壁倒立はできない」と諦めている生徒がいる。	【成果指標】 壁倒立を補助なしで80%以上の生徒ができる。	壁倒立ができる生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	CまたはDの場合は、個別指導を行う。	毎月1回静止時間を測定する。
	③:健康チェックを通し、他者との適切なコミュニケーションがとれるようになる。	衛生看護科	他者への情報提供・説明能力が十分でない生徒がいる。	【成果指標】 健康チェック利用者に適切な説明ができる。	生徒の説明が分かりやすいと答える人の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合は、指導方法を検討する。	健康チェック時にアンケートを実施する。
	④:挨拶をする習慣を身につける。	総務課 生徒会 生徒指導課	挨拶が十分でない生徒がいる。	【成果指標】 挨拶が自然にできる。	保護者アンケートで A ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B 多くの生徒が挨拶している。 C 挨拶している生徒は半数程度。 D 挨拶している生徒は半数以下。 A+Bの割合が95%以上である。	A+Bの割合が95%以下の場合は、集会などを通して注意喚起をうながす。	P.T.A総会、7月と12月の保護者懇談の3回アンケートを実施する。